（別紙２）

日本広報協会による審査員講評

〇情報発信のひひひ　久山町

【広報企画　読売新聞社賞】

広報紙リニューアルの経緯を記録したユニークな取り組みだ。広報誌のリニューアルにあたって課題の解決にアンケートなどで町民の声を聴きながら真摯に取り組んでいる点を評価する。

「完了しない広報紙リニューアル」という発想は斬新である。広報紙リニューアルを行政だけのものにとどめず、受け手である市民を、受け手にとどめず積極的な参画を求める存在としたことは意義がある。令和４年からのリニューアルのプロセスを公文書に残すという取り組みも良い。詳細な表紙選定協議記録を残すことも政策評価のためにも有用である。

常に改善し続け、進化させていくのは行政の事業を考えるうえで非常に重要であり、何を残していくか見つめ直すことで、事業の本質を確認できる。それを踏まえたガイドラインを作成できたのもよかった。

〇広報みやわか（2024 年 12 月号）　宮若市

【広報紙（市部）入選】

（広報紙部門　講評）

テーマは人権。当自治体がハラスメント報道を受けたことに端を発する企画で人権週間とも連動している。時代の変化に伴って、人権のとらえ方も変わるということを家族・教育・企業・地域という場面・切り口からインタビューしていくという構成は絶妙である。最後に「編集を終えて」の欄でしっかりまとめられている。

最初の見開きページの特集が四つの章で構成されていることをビジュアルで示し、各章でインタビューを中心に展開していくことも一目で理解することができ秀逸。“インタビュー広報”としてのモデルともいえるのではないか。

表紙と見開き以外はモノクロ印刷で落ち着いた印象にまとまっているが、その分本文をしっかり読むことができる。フルカラーで安易に多くの色を使うより、レイアウトにも工夫し、まとまった印象になっている点は高く評価できるだろう。

○広報よしとみ（2024 年 2 月号）　吉富町

【広報写真（一枚写真部）入選】

（広報紙部門　講評）

子育て世代にまちの消防団の活動を PR するため、かわいらしいこどもたちを主役に撮影された作品。3 人のそれぞれのキャラクターが良い味を出した元気いっぱいの写真だ。

初対面のこどもたちから同時にベストショットを引き出すのは非常に難しい。撮影担当者は現場で苦労したようだが、粘り強く取り組み、周囲の協力もあって、とても良い笑顔とポージングを引き出すことができた。

構図作りも秀逸。半逆光で主人公たちを優しく均一に包みつつ、消防車には適度なコントラストをつけ、誌面いっぱいに配置して迫力を出している。背景いっぱいの消防車もアイキャッチ効果抜群で表紙に映える写真に仕上がっている。消防車が見えるように、1 人だけしゃがんだ構図も工夫されている。

消防団の制服での撮影はこどもたち本人にとっても特別な記念となったことだろう。こうした経験を通じて、防災意識が将来にわたってはぐくまれていくことを願いたい。